

不登校対応加配教員を活用した本校の取組について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、心理的に不安定な側面がある。昨年度、中学校の新しい環境や友人関係への不安、学習への抵抗感や部活動等による生活へのプレッシャーから登校意欲が低下してしまい、不登校になった。

中学校1年の昨年度は、11月からほとんど欠席することになり、欠席が143日になった。

具体的な取組

○魅力ある学校づくりの推進

毎学期、全生徒対象にアンケートを実施し、生徒の実態に応じた支援を行う。

また、生徒が学習に対して、達成感を感じることができるよう、基礎的・基本的な内容をテスト形式で行い、合格できるよう個別に支援した。

○不登校対策委員会の設置及び支援会議の実施

校内に不登校対策委員会を設置し、情報の共有と短期的・長期的な指導方針について確認を行った。また、管理職、学級担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター等が出席する支援会議を週1回実施した。

○生徒の居場所づくり

教室に入ることに抵抗感をもっている生徒が、学校で安心して過ごすことができるよう別室を用意し、気持ちを落ち着かせる場所を確保した。



○SCなどの関係機関等との連携

心理的な不安を抱えている不登校の生徒やその保護者について、教職員だけでなくSCやSSWなどと情報を共有するとともに、面談などを積極的に勧めた。SCと学校との間で口頭やノートでの情報共有を確実にし、生徒・保護者への理解を進めた。

成果

上記対応を継続し、当該生徒は今年度から安定して出席ができるようになった。1学期は72日のうち54日登校することや、教室で授業を受けることができる。必要に応じ、生徒自身が申告した上で、気持ちを落ち着かせる時間をとることができた。

課題

生徒の心理的不安の根本的な解決には至っていないため、SCとの連携も含めた組織的対応を行い、生徒の社会性の育成を図る。